

## 東京金融取引所(TFX)セッション「くりっく365」「くりっく株365」

東京金融取引所  
南出 幸秀氏

FX投資を始めたいという方におすすめしたいのが、「安心」「透明」「信頼」の公的取引所FX「くりっく365」です。通常のFX取扱会社が行う店頭での相対取引ではなく、取引所を通す取引ですので、初心者の方でも安心して投資を始められると思います。「くりっく365」の特徴は、①厳格な資格要件を満たした取扱会社を選定し、投資家の皆様の証拠金は全額、東京金融取引所がお預かりし保全すること、②通貨のスペードの狭

さが業界の中でもハイレベルな水準にあることなどが挙げられます。口座数・証拠金残高は国内では圧倒的なシェアを誇っています。

日本株の投資を始めたい方におすすめしたいのが、株価指数に投資する「くりっく株365」です。日経平均株価×100円の取引単位を、レバレッジを効かせた証拠金取引で行うことができます。例えば、2013年6月24日の日経平均を取引する場合、1万3014円×100円(1枚)=130万

1400円の取引を、証拠金基準額8万4000円で取引ができます。資金効率がよい反面、大きな損失が出る可能性もあるので、リスクコントロールが必要です。また配当も受け取ることができます。2012年4月から2013年3月まで1枚保有していた場合、配当だけで2万603円、得ることができます。値上がり益以外の収益も見込めるのです。

FXなら「くりっく365」を、日本株なら「くりっく株365」をぜひご活用ください。

## 東京商品取引所(TOCOM)セッション「円建ての金先物取引」

東京商品取引所 広報部  
小淵 大樹氏

東京商品取引所はコモディティ投資を取り扱う取引所です。様々な商品を扱っている中、2012年の総取引高において57.7%を占めたのは金の取引です。金の関心が高まっていることが伺えます。

金投資には、①金地金を購入、②ETFに投資、③商品先物取引の主に3つがありますが、東京商品取引所では③の先物取引を取り扱っています。先物取引のメリットは、少ない資金で大きな取引ができるレバレッジを効かせることができること、

今後、価格が下がると予想する場合には、売りからも入れることです。その分、ハイリスク・ハイリターン取引ではありませんので、余裕資金で無理のない範囲で投資をすよといっています。

先物取引ではありませんが、現物決済すれば金地金を取得することもできます。例えば6月25日の価格で金1kgを買い付けた場合、先物取引を利用した場合の購入費用合計金額は422万3205円となり、貴金属地金商の店頭で購入するより5万

8795円安くなります。こうした使い方もできます。

東京商品取引所が取り扱う金、石油関連、ゴム、農作物といったコモディティは、株や為替とは違う値動きをする場合が多く、分散投資の一助として期待ができます。コモディティの先物取引は、商品先物取引会社に口座開設を行い、その会社を通じて証拠金を清算機関に預託して始めることができます。ぜひこの機会にご検討ください。

## WGCセッション「金のファンダメンタルズをあらためて考える」

ワールド ゴールド カウンシル 日本代表  
森田 隆大氏

金市場が大きく揺れ動いていますが、今後の金市場の動向を占う上で、6つの構造要因を見ることが重要です。1つ目はドルに対する信認。金はドルと逆相関になるケースが多く、今後、ドルが信用できるのか/できないのかによって金価格の動向が見えてきます。2つ目はソプリリスク。今まで安全だと思われていた先進国の国債が不安視されるようになると、金価格は上昇する傾向にあります。先進国の財政赤字問題はどうかの注目点

です。

3つ目はインフレ懸念。量的緩和の出口戦略がうまくいかず、インフレを招いた場合、金はインフレヘッジとしての役割が期待できます。4つ目は中央銀行の購入。このところ中央銀行が金の購入を増やす傾向にあります。無国籍通貨としての金の価値に重きを置いているからでしょう。5つ目は、中国・インドの実需の需要増。これらの国々では金を宝飾品として、またいつでも身に付けて持ち出せる資産として

重宝する傾向にあり、金価格が下落すると購入を増やすことが多くなっています。6つ目は、機関投資家の参入。これまであまり金投資をしていなかった機関投資家が、テールリスクのヘッジや分散投資の効果をより高めるために、金を保有する傾向が近年増えてきました。

これら6つの要因を分析すると、今後の金価格がどのように動くのかが見通しやすくなります。中長期で金市場を考えると投資家には必要でしょう。

当資料は、ゴールドニュース事務局がセミナーの様態を伝えることを目的に作成したものです。セミナーは投資判断の参考となる情報の提供を目的としています。実際に投資される場合の最終決定は、ご自身で行っていただくようお願い致します。各種情報の内容については万全を期していますが、その内容を保証するものではありません。また、将来の予測はその結果を保証するものではありません。

## TOKYO GOLD FESTIVAL2012

より深く学びたい方のためのスピノフセミナー Vol.5  
「金×株×為替×経済:スペシャリスト対談」

開催日時:2013年7月6日(土)

会場:東京・御茶ノ水 ソラシティ

主催:東京金融取引所 東京商品取引所

ゴールドフェスタ事務局

後援:ワールド ゴールド カウンシル 日本商品先物振興協会

企画・運営:株式会社社想研、キャピタル・エフ株式会社

## The Seminar Press

お問い合わせ先

キャピタル・エフ株式会社

ゴールドニュース事務局

東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

E-mail:goldnews.jp@gmail.com

投資の最前線を知るセミナーレポート

## The Seminar Press

2013年(平成25年)

7月12日発行

ゴールドニュース事務局  
http://goldnews.jp/主催  
東京金融取引所  
東京商品取引所  
ゴールドフェスタ事務局  
後援  
ワールド ゴールド カウンシル  
日本商品先物振興協会金×株×為替×経済  
スペシャリスト対談

～揺らぐ時代の投資戦略を考える4時間～

異次元の金融緩和をはじめ3本の矢を引っさげたアベノミクスにより、日本株市場は乱高下しています。

アメリカでは量的緩和の出口戦略がさざやかれ、米国株市場も大きく変動しています。

各国の金融政策に振り回される形で、無国籍通貨の金は下落傾向が続いています。この先、金、株、為替、経済はどうなっていくのか。

2013年7月6日に東京・御茶ノ水のソラシティで行われたセミナーの様態をご紹介します。

強いアメリカ経済  
さらなるドル高続く

**大橋** アメリカの6月の雇用統計は、予想以上に良い結果となりました。これを受けて、アメリカでは株高・ドル高が進んでいますが、今後もこの動きは続くのでしょうか?

**池水** アメリカ人勝ちの様相がかなり強くなってきました。私の金融関係者の知人は、他の資産は売り払って、「Buy dollar」とにかくドルを買えと連呼していま

す。ドルが投資対象として注目されるほど、ドル一辺倒の機運がマーケットに漂っているように感じます。

**大橋** 量的緩和の縮小が7月または9月に始まるのではないかとの見方をする人も出てきましたが、どう思いますか?

**亀井** さすがに早期に縮小するのは無理でしょう。今まで量的緩和でマーケットにお金をジャブジャブしたおかげで水ぶくれした経済です。これまで株価や経済を支えてきたQEというサポートをいきなり外すのは相当、怖いことでしょう。少なくて

も年内に縮小はないと考えます。

**深谷** 現在のドル高は量的緩和の縮小観測のみならず、シェール革命が中期的なドル高に寄与し始めている部分も大きいとみています。ファンダメンタルズを背景に海外からの投資資金の流入がドル高をもたらしている。S&Pの株式益回り水準を見ても6%前後で、なお米国株には魅力があります。またドルはこれまでが安すぎたという面もあります。米国株高、ドルはしばらく続くのではないのでしょうか?

**亀井** 確かにアメリカの景気は回復して

います。しかし、BRICsを中心とした新興国経済が低迷しています。特に量的緩和の出口戦略が近いとの予測から、アメリカの金利が上昇し、新興国からマネーが逃げています。新興国の低迷はやがてアメリカはじめ先進国にも深刻な影響を与えるのではないかと懸念しています。**大橋** 新興国では中国のシャドーバンキング(影の銀行)問題が取り沙汰されていますが、新たな金融危機を引き起こす可能性はないのでしょうか?

**深谷** グローバルなリスクにはならないで

スタンダードバンク  
東京支店長  
池水 雄一氏

1962年兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリアン(貴金属)ディーラーでブルース(池水氏のディーラー名)の名を知らない人はいない。

FPG証券代表/  
為替アナリスト  
深谷 幸司氏

1984年東京大学法学部卒業後、三菱銀行に入社。1987年5月より資金証券部に在籍。1995年5月を替資金部に異動。為替アナリストの後、チーフアナリスト就任。2007年ドイツ証券シニア為替ストラテジスト。2010年よりクレディ・スイス証券デリクター(債券本部)外国為替調査部長。2012年10月にオフィスFUKUYAを立ち上げ、為替アナリスト活動を中心に企業・個人へのコンサルティング開始。2013年3月FPG証券代表取締役就任。

マーケット・ストラテジ・インスティテュート代表/  
金融・貴金属アナリスト  
亀井 幸一郎氏

和歌山県生まれ。1979年中央大学法学部卒業。山一証券に8年間勤務後、1987年投資顧問会社で日本初のFP会社MMI入社。1992年ワールド ゴールド カウンシル(WGC/本部ロンドン)入社。企画調査部長として経済調査、世界の金情報収集、マーケット分析、国内市場調査に従事。1998年独立開業。2002年より現職。「史観と俯瞰」をモットーに金融市場から商品市場、国際情勢まで幅広くウォッチ。

フリーアナウンサー  
大橋 ひろこ氏

ラジオNIKKEI「マーケットトレンド」キャスター。マーケット関連、特にデリバティブ関連に造詣が深い。豊商事株式会社が提供する動画マーケット情報サービス「YMTV」の準専属キャスターとして出演中。コモディティやFXなどの経済番組のレギュラーを務める傍ら、自身のトレード記録もメディアを通じて赤裸々に公開中。特にデリバティブ関連に造詣が深く、ラジオ、セミナーでは投資家目線での進行に定評がある。投資関連モデレーターのスぺシャリスト。





しょう。確かに中国の高利回り理財商品は、中国版サブプライムローンともいえるのですが、サブプライムローンのように世界の投資家に売りまくられたわけではないのが大きな違いです。中国国内では深刻な影響が出て、中国経済の悪化による実需面での先進国経済の悪影響は懸念されますが、グローバル金融危機に発展する可能性はないでしょう。

**実需は旺盛なのに下がり続ける金**

**大橋** 世界経済が上向きになる兆しが見えつつある今、金は下がり続けています。4月に大きな下げがあり、1300ドル台まで急落。その後、値を戻しましたが、今度は一時1200ドル割れまで値を下げています。今後はどうなるのでしょうか？

**池水** 今までの金相場が異常だったと言えるかもしれません。金は世界経済の不安心理を表すもの。リーマンショック以降、世界経済のテールリスクが認識されるようになり、安全資産としての金、無国籍通貨としての金が脚光を浴びました。しかし世界経済がショックから立ち直り、緩やかな回復を見せる中、景気が良くなり、株が高くなれば、ある程度まで金は売られて当然という気がします。

**大橋** テールリスクは存在しなくなったのでしょうか？

**亀井** 目立たなくなっただけで存在はしています。先進国の量的緩和策をはじめとする景気刺激策により、一時的に株高になっていますが、貧富の格差が拡大するなど、社会問題の歪みは大きくっており、それが各国でデモが起きている背景にあると考えています。政治的リスクや地政学

的リスクを引き金とした何らかのショックが起きる可能性はぬぐえませんが、さすがに金もこれ以上の下げは考えにくいと思いますので、今のうちに安全資産として投資しておくのは手でしょう。

**池水** これだけ金価格が下がっていると、安いのでも買いたいというアジアを中心としたバーゲンハンターの買いがすごいことになっています。買っても実物がないほど盛況です。

**亀井** 実需の金買いが盛況な一方、ペーパーの金の空売りが、これまでにない規模で膨らんでいます。実需以上にペーパーの金を売っている投資家勢が多いため、金価格が上がらない状況が続いています。

**深谷** 金は通貨の一部として考えられ、通貨不安の際には安全資産としての需要が高まっていますが、今はドルが実体経済を伴った強さを発揮しているため、金需要の減退はしばらく続くでしょう。特に金利がつかはじめたドルは魅力的です。今後、景気回復とともに金利が上がれば、金利のつかない金よりドルを愛好する動きは加速するでしょう。

**大橋** 日米金利差が広がれば、円安ドル高が続くと見ていいのでしょうか？

**深谷** 円安ドル高は進むでしょう。アベノミクスで日本円をジャブジャブにしても円安になるわけではありませんが、日米の金利差が拡大すればお金の金利の高い方に流れるのは必然です。これからの時代、投資家は利回りで金融商品を選んだ方がよいと考えています。

**大橋** では最後に、今、投資するならば何がよいか、教えていただけますか？

**池水** 「Buy dollar」との言葉通り、ドル

■NY金価格の推移 (NYコメックス中心限月:日足)



■日経平均株価の推移



■ドル円相場の推移



が投資対象として魅力的です。円安ドル高になれば、円建ての金も魅力。円安で値上がり益を狙えますし、4000円を割った金は安すぎます。金と同じ割安になったプラチナも買いです。

**亀井** 割安な金は買いでしょう。特にアメリカ経済は強いと言っても、債務上限問題などリスクが残っているため、金の価値

が再び脚光を浴びる可能性はあります。また日本の個別株も魅力。時代の変化に対応して業態変更した企業などは、今後の成長が期待できると見えています。

**深谷** 利回りで見れば米国株もドルも魅力的です。しばらくはアメリカの強さが際立つでしょう。

**大橋** どうもありがとうございました！

**「マーケット・アナライズ」連携セッション**



**異次元の金融緩和のラップタイムを計る**

BS12 TwellV で毎週土曜日に放送中の投資番組「マーケット・アナライズ」のメンバーが、現状の日米の経済情勢およびマーケットについて解説。日本の異次元の金融緩和の行方を探ります。

**アメリカの量的緩和は金利低下により貸し出しを促進**

**櫻井** 日本で行われている異次元の金融緩和ですが、どんな効果があるのでしょうか？

**岡崎** マネーの量を増やすことにより、株や不動産などの資産価格を上昇させ、また自国通貨を安くすることにより、経済の波及効果を期待するものです。例えば日本の場合、日経平均株価が1000円上昇するとGDPが0.1%増加し、10%の円安でGDPが0.2%増加するとの試算が出ています。ただし金利は低くしたままだというのがポイントです。もし大量の国債買い入れによる金融緩和が、財政赤字の穴埋めと見られ、長期金利が上昇すると問題です。実際に5月の日経平均株価暴落の際には国債の長期金利が上昇したことによる影響が大きいと思います。いずれにせよ「やってみなければわからない」というのがこの金融緩和です。

**櫻井** 先行して量的緩和を行ってきたアメリカではどんな効果があったのでしょうか？

**岡崎** 米国株は量的緩和を行ったQE1、QE2、QE3と連動して株価が上がっています。でも実はアメリカの場合、マネーの量を増やしたから株価が上がったという側面だけでなく、量的緩和により金利が高

かった国債、住宅ローン、社債の金利が下がったことによる経済効果が大きいと見えています(図表1)。高金利で借入れが難しかった状況が改善され、低金利になり個人も企業も資金調達しやすくなったため、アメリカの経済が良くなったのです。

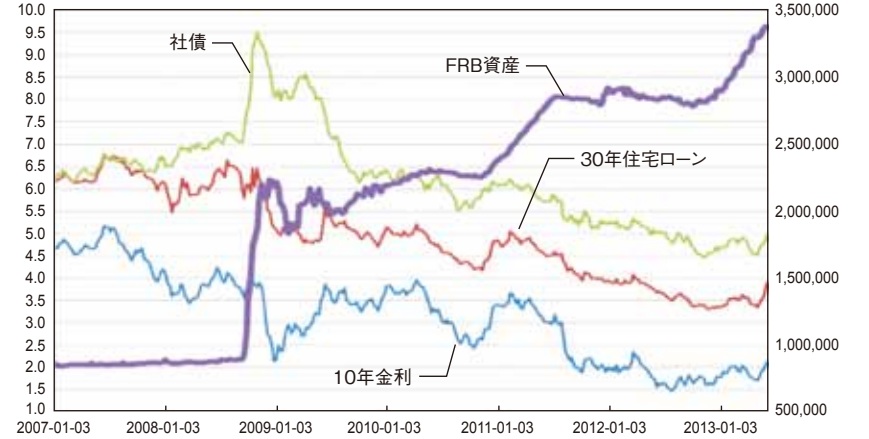
**櫻井** 日本の場合もアメリカと同様の効果が期待できるのでしょうか？

**岡崎** そこが問題です。日本はアメリカと違い、もともと金利が低かった。金利が低くても個人も企業もお金を借りないし、むしろお金が余っている状況です。アメリカのように金利が下がって経済が良くなるという効果は期待できません。

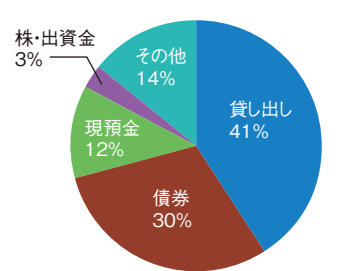
例えば日本の銀行のポートフォリオを見ると、貸し出しに回っているのはわずか41%に過ぎず、国債を中心とする債券に30%のお金が回っています(図表2)。銀行が保有している国債のうち130兆円を日銀が買い上げ、銀行にリスクマネーを提供するわけですが、このお金が貸し出しや株や不動産などに回るのであれば経済効果は出てくると思いますが、借りる人がいない状況で貸し出しが増えるかは疑問です。また日本の個人のポートフォリオを見ても、55%が現預金です(図表3)。この現預金のわずか数%でも株などのリスク資産に向かえば、大きな経済効果が期待できるでしょう。

**櫻井** 量的緩和や成長戦略によって、

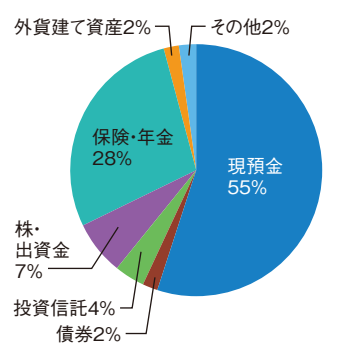
【図表1】米国における量的緩和の効果



【図表2】銀行(預金取り扱い期間)のポートフォリオ: 2012年12月末=総額1637兆円



【図表3】家計のポートフォリオ: 2012年12月末=総額1547兆円



株の中でどんな銘柄が有望ですか？

**鈴木** 円安になると輸出企業が有利になると言われていますが、すでに工場を海外移転していれば不利になる場合もあります。むしろ円安で期待できるのは外国人観光客の増加による日本の観光関連銘柄です。例えば、北海道の日銀短観の景気判断が21年ぶりにプラスになったそうですが、北海道はオーストラリア人や中国人ほか、雪を見たことがないアジアの人たちにとって憧れの観光地です。円安になればなるほど訪日外国人が増え、観光産業が潤う可能性があります。

先日、富士山が世界遺産になりましたが、富士山目当ての外国人観光客も増えるでしょう。また日本食はきっと外国人に受けるはず。日本食関連の外食産業なども有望ではないでしょうか。